

I 研究主題

一人一人が思いや意図をもって表現できる能力の育成をめざして
～言語活動をともなった思考力、判断力、表現力の育成と評価～

II 研究主題設定の理由

児童、生徒一人一人が自分の考えや思いをもって表現できるためには、思考、判断、表現によるそれぞれの能力を育成するとともに、その過程において、言語活動の充実を図ることが重要であると考えます。

音楽科の学習内容と研究課題との関わりにおいて、思考力、判断力、表現力に関する取組として、①「聴くこと」(感受)から、②考察(言語表現による判断)し、③「音楽的表現」(言語及びまとめと発表→表現)という一連の過程に置き換えられる。したがって、学習する表現および鑑賞教材それぞれの持つ構成要素を感受し理解する中で自分自身の考えをもち、さらに音楽的な表現として演奏に結びつけられるスキルが学力の向上に大きく関わると考える。

課題は、音楽の学習を通しての思考力、判断力及び表現力を付けさせるために必要な方策を考察するとともに、評価に関して音楽的表現から言語的表現に変換すること、つまり「音楽と言葉」の関係を明確化することである。

平成18年における中教審教育課程部会経過報告の中で、「言葉の重視」を強調するとともに、「言葉は『確かな学力』を形成するための基盤であり、生活にも不可欠である。言葉は他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段であり、家族、友達、学校、社会と子どもをつなぐ役割を持っている。言葉は思考力や感受性を支え、知的活動、感性・情緒、コミュニケーション能力の基盤となる」と述べている。また中教審答申では、「言語活動の充実」が「各教科等を貫く重要な改善の視点」と提言している。

よって、本研究においては特にグループによる言語活動を主体とした学習展開を設定し、生徒が自分のイメージや思いを伝え合ったり他者の意図に共感したりできるようにするなど、生徒間のコミュニケーションを図り、曲想を感じ取り、思いを表現に結びつけていきたいと考えている。

III 研究の内容

- (1) 鑑賞や範唱について感想を記入し、(ワークシート等)発表する。(言語的表現)〔感受〕
- (2) 実際に演奏し、自分の感じた感想と表現について考察する。(楽譜シート)・パートごとの発表。〔考察〕
- (3) 他者の考えやパートごとの意見を知り、感じ取ったことや自分の考えをまとめ、明確にする。〔判断〕
- (4) 曲に対する思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽的表現を工夫し演奏する。(表現)
- (5) 評価について
 - ・授業の単元ごとに、判定基準を設定し、評価規準に則して評価をおこなう。判定基準として「十分満足A」「おおむね満足B」「努力を要するC」に分類し、明確に評価する。「おおむね満足B」、「努力を要するC」の生徒については、積極的に働きかけをし、指導の手だてを示し、支援していく。

IV 実践例①

所沢市立清進小学校 6 年生の事例

1. 題材名 「和音の美しさを味わおう」

2. 題材の目標

(1) 和音の響きの変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。

(2) 和音の響きの美しさを感じ取って、互いの歌声を聴き合いながら、全体の響きのバランスに気をつけて演奏することができるようにする。

3. 評価規準

・本時（第2時）

音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
和音、リズム、速度、旋律、強弱、変化を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容・曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	音楽の要素を感じ取り、表現を工夫して歌っている。

4. 本時のルーブリック（判定基準）

学習活動	十分満足（A）	Aに達しない（B）児童への学習支援
「星の世界」の範唱を聴いて感じとったことや気づいたことを書き、思いや意図をもって歌う事ができる。	音楽を形成している要素を的確に聴き取り、具体的に聴き取ったことと感じとったことを関連づけて歌うことができる。 【学習カード・ワークシート】	音楽を形成している要素を的確に聴き取ったり、具体的に聴き取ったことと感じとったことを関連づけていたりすることができていない状況から、感じたことや気がついた音楽を形成している要素を、対話をしながら聴き取り、関連づけられるように支援していく。
	おおむね満足（B）	Bに達しない（C）児童への学習支援
	音楽を形成している要素を自分なりに聴き取り、聴き取ったことを関連づけて歌うことができる。 【学習カード・ワークシート】	曲のよさは感じとれるが、音楽を形成している諸要素は聴き取れない状況から、まず、諸要素の働きが生み出す良さやおもしろさを感じ取ることができ、さらに言葉に表す力を発揮できるために、和音の違いを色で変化させたものや、旋律の動きの特徴を線で表したものの、また感じたことを表す言葉を示したカードを使用するなどの学習支援を行う。

展開 (2 / 7)

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◆評価規準	共通事項
<p>○発声練習をする。</p> <p>○本時の学習内容を知る。</p> <p>○「星の世界」の歌詞を知る。</p> <p>○「星の世界」の範唱を聴いて感じ取ったことや気付いたことを学習カードに書いて発表する。</p> <div data-bbox="220 689 507 757" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 範唱を聴きながら書く。 </div>  <div data-bbox="220 1131 571 1232" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 曲の感じを表す言葉の例を見ながら考える。 </div>  <p>○感じ取ったことを生かしながら「星の世界」を全員で歌う。</p> 	<p>・指導上の留意点 ◆評価規準</p> <p>・姿勢や口の形を意識するように声かけをする。</p> <div data-bbox="534 331 1244 392" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 「星の世界」の紹介文を書こう。 </div> <p>・教師が範読してから、全員で声に出して読む。</p> <p>・表現に生かせるように歌詞の内容も補足する。</p> <p>・和音の変化や音楽の要素を感じ取りやすいように、拡大した楽譜に色分けや図等を示し、視覚的にも捉えられるようにする。</p> <div data-bbox="603 694 1061 952"> </div> <div data-bbox="1077 689 1244 907" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 視覚的にとらえる教材の工夫 </div> <div data-bbox="630 974 901 996"> 和音の変化を表わした楽譜 </div> <div data-bbox="981 974 1268 996"> 旋律の動きを線で示した楽譜 </div> <div data-bbox="619 1019 922 1220" style="border: 1px dashed black; width: 190px; height: 90px; margin: 5px 0;"></div> <div data-bbox="949 1019 1268 1209"> </div> <div data-bbox="603 1227 1268 1556" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>・自分の言葉で表現できない児童には、感じたことを表す言葉のカードから選んでみるように助言する。</p> <p>・歌声のきれいさや音の美しさ等だけにとらわれている児童には、「なぜきれいなのか」を問いかけながら、和音の変化等の音楽の要素に気が付けるように助言していく。</p> </div> <p>◆和音、リズム、速度、旋律、強弱、フレーズ、変化を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。【創一①】</p> <p>・正確な音程で歌唱できるように旋律をピアノで弾き音をとる。</p> <p>◆音楽の要素を感じ取り、表現を工夫して歌っている。【技一①】</p>	<p>共通事項</p> <p>リズム 速度 旋律 強弱 和声の響き フレーズ 変化 和音</p> <p>和声の響き フレーズ 変化</p>
<p>4 今日の学習を振り返る。</p>	<p>板書で、本時の流れを確かめ自己評価させる。</p>	

V 実践例②

所沢市立北野小学校の事例

1. 題材名 曲想を味わおう

2. 題材の目標

(1) 曲想やその変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。

(2) 旋律の特徴を感じ取って曲想を生かした表現の仕方を工夫しながら演奏することができるようにする。

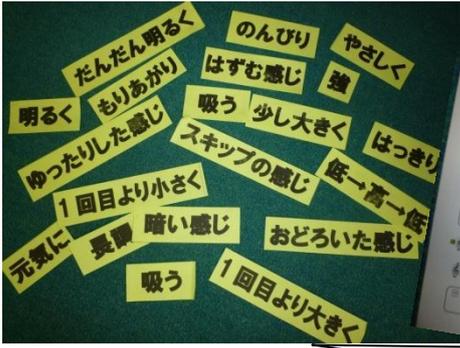
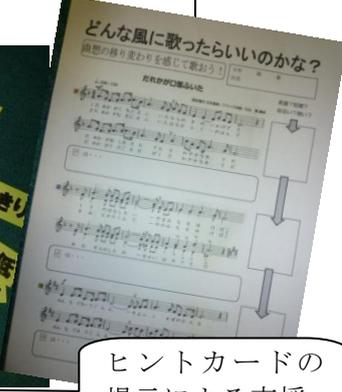
3. 評価計画と規準

・本時（第2時）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の 評価規準	①曲想の変化を感じ取って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②旋律の特徴や変化を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ③イ短調の楽譜を見て演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫している。 ②曲想の違いを生かして演奏の仕方を工夫している。	①旋律の特徴や曲想の変化を生かして歌っている。 ②旋律の特徴を生かして、タンギングや運指に気を付けながら演奏している。 ③楽器の特徴を生かして音量のバランスに気を付けて演奏している。 ④各パートの音や全体の響きを聴きながら自分の音を合わせて演奏している。	①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。
1・2時	①	①	①	
3時	②			①
4～8時	③	②	②③④	

4. 本時のルーブリック（判定基準）

学習活動	十分満足（A）	Aに達しない（B）児童への学習支援
「だれかが口笛ふいた」の旋律の特徴や曲想の変化を感じ取って、楽譜に書き込み、歌い方を工夫できる。	旋律の音の動きやリズム、速さや強さ、調の変化などの、音楽の要素を的確に感じ取って楽譜に書き込み、感じ取ったことを関連づけて歌うことができる。 【歌唱・ワークシート】	音楽の要素を的確に感じ取ることができない状況から、まず、旋律の動きの特徴を線で表し、転調している部分に注目できるように色をつけておいた楽譜を使用するなどの学習支援をおこなう。
	おおむね満足（B）	Bに達しない（C）児童への学習支援
	旋律の音の動きやリズム、速さや強さ、調の変化などの、音楽の要素を自分なりに感じ取り、感じ取ったことを関連づけて歌うことができる。 【歌唱・ワークシート】	音楽の要素を感じ取ることができない状況から、転調している部分だけに注目させ、実際に和音や伴奏を聴かせながら変化を感じ取れるような学習支援をおこなう。

○学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ◆評価方法	共通事項
<p>○ 発声練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマリリスを歌う。 <p>○ 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>曲想の変化を感じながら、歌い方を工夫しよう。</p> </div> <p>○ 「だれかが口笛ふいた」の歌詞唱をする。</p> <p>○ ア イ ウ の旋律の特徴を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで相談する。 ・発表する。 ・歌って確かめる。 ・拡大楽譜を見て確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や口の形を意識するように声かけをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>曲想の変化を感じながら、歌い方を工夫しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって取り組めるよう、めあてを掲示する。 ・口の開け方や表情を観察し、明るく響く歌声になるように児童の様子を観察し、適宜指導する。 ・付点のリズムに気を付けて歌えるよう助言する。 ・ワークシートを配布し、旋律の特徴やリズムの特徴をグループでまとめさせる。ア イ ウ の3グループ)   <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ヒントカードの提示による支援</p> </div>	<p>音階</p> <p>旋律 リズム</p> <p>音階や調 旋律 リズム</p> <p>調 強弱 音色</p>
<p>○ 曲想の変化を生かして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想の変化を生かして、全体を通して歌う。 	<p>旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫している。</p> <p style="text-align: center;">音楽表現の創意工夫【演奏聴取・ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合っている時は、児童の様子をよく観察し、活動が停滞しているグループには、実際に教師が助言する。 ・話し合いで出てきた意見を拡大楽譜にまとめ、確認しながら歌えるようにする。 <p>旋律の特徴や曲想の変化を生かして歌っている。</p> <p style="text-align: center;">音楽表現の技能【演奏聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が意見をまとめていくことによって、音色を揃えるための条件を共有できるようにする。 	<p>旋律 リズム 調 強弱 音色</p>

VI実践例③

所沢市立東中学校 1 年生の事例

1. 題材名 「三部合唱の響きを味わおう」

2. 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うことができる。
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら声部の役割や全体の響きを感じとり、音楽表現を工夫する。

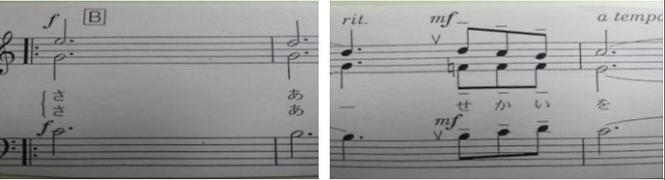
3. 評価計画と規準〔☆〕

・本時（第 2 時）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の 評価規 準	①音楽表現の工夫に関心をもち、主体的に話し合いに参加し取り組もうとしている。 ②学習したことや工夫したことを生かして歌おうとしている。	①音楽を形づくっている旋律、拍子、音色、強弱、テクスチャー、和音等を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、歌っている。 ②声部の役割を理解して、音楽表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。	①声部の役割と全体の響きとの関わりを理解している。 ②音楽表現するために必要な技能を身につけて歌っている。
1 時	①		
2 時	①	①	②
3 時	②	②	①②

4. 本時のルーブリック（判定基準）

学 習 活 動	十分満足（A）	Aに達しない生徒 B への学習支援
「夢の世界を」の歌詞の内容や曲想の変化を感じ取り、感じ取ったことを楽譜に言葉で書き表して、音楽表現を工夫して歌うことができる。	旋律の変化および音色、強弱、和音など、音楽を形成している要素を的確に知覚し、具体的に言葉で楽譜に書き込み、感受したことを関連づけて歌うことができる。 【演奏・(歌唱)】	音楽の諸要素については知覚できるが、具体的に言葉で表せない生徒に対しては、曲想カード等の支援し感受したことを的確な言語表現とリンクさせる。
	おおむね満足（B） 旋律および音色、強弱、和音など、音楽を形成している要素を自分なりに知覚し、感受したことを関連づけて歌うことができる。 【演奏・(歌唱)】	Bに達しない（C）生徒へ学習支援 音楽を形成している諸要素を知覚できない状況から、各記号等の名称や意味を記号カードで振り返らせ、曲想と記号との関係性を感じ取れるように支援する。言語表現については、曲想カードを提示し支援する。

学 習 活 動	指導上の留意点 ☆評価規準・方法	共通事項
<p>○挨拶をする。</p> <p>○本時の学習内容を知る。</p>	<p>挨拶がしっかりできる。</p> <p>パートの役割や曲想の変化を感じながら表現を工夫しよう</p>	
<p>○「夢の世界を」3部合唱</p>  <p>○Bの歌い方についてパートで話し合う。</p>  <p>○話し合ったことをもとにパート練習をする。</p>  <p>○パートリーダーは話し合い練習した内容を発表し、全員で合唱する。</p> <p>記号の読み方と意味を学習する。</p> 	<p>○旋律の音程、リズム、和音を意識して演奏する。</p> <p>○AとBの曲想の違いを感じて歌う。 ☆(創①・技①)</p> <p>◇Bは3部合唱であることを確認して、各パートの役割りについて気付くことができる。 ☆(関①)</p> <p>○パートリーダーを中心に練習する。</p> <p>◇パートを回り、工夫の変化を確認し、賞賛したりアドバイスを入れたりするなどの指導・助言する ☆(創①・技①)</p>  <p>◇アルト→テノール→ソプラノの順(予定)</p> <p>○それぞれの課題をパートリーダーが発表する。</p> <p>A・B各部分の曲想の違いや音楽の要素の特徴をいかして歌う。 ☆(創①)</p>   <p>○各記号について曲想とのかかわりを考える。 ☆(創①・技①)</p>  <p>発表し、お互いの意見を聴きあう</p>	<p>パートの役割に視点をあてて合唱する</p> <p>パートで話し合い活動をし、曲想についての意見交換をする(言語活動)</p> <p>旋律 和音 音色 強弱 テクスチャー</p> <p>パート別練習による個別の形成的評価の実施</p>
<p>本時のまとめ</p> <p>・今日の授業の取り組みについて自己評価カードに記入する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>□今日の学習を振り返り、頑張れたところや良かったところを賞賛し、次時の意欲につなげる。</p> <p>○授業内容を振り返り、カードに記入する。</p> <p>○次時の学習内容を確認し、曲に対する意欲を持たせる。</p>	

VII 実践例④

所沢市立所沢中学校 2 学年の事例

1 題材名 「合唱の豊かな表現」

2 題材の目標

(1) 歌詞の内容を味わい、表現の方法を考え、工夫して歌うことができる。

(2) 歌詞の内容にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができる。

3 評価規準・本時（第4時）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評価規準	①歌詞の内容に興味をもち、理解している。 ②パートの旋律を覚えることに意欲的に取り組んでいる。 ③考えたり理解したりしたことを表現しようとしている。	①詩の内容や作詞者の思いと、記号・調性・パートの特性を関連させて考え、表現に生かそうとしている。	①曲種に応じた発声で歌うことができる。 ②曲種に応じた表現をするために必要な技能（曲に相応しい発声・言葉のまとまり・発音・伸ばしとプレス）で歌うことができる。
4時	③	①	②

4 本時のルーブリック（判定基準）（3）本時の展開中★印で示してある。

学習活動	十分満足（A）	Aに達しない（B）生徒への学習支援
・『地球の鼓動』の歌詞の内容と記号・調性・声部の特性を関連させ表現を工夫して歌う。 ・曲種に応じた発声や言葉のまとまり、発音、伸ばしとプレスを身に付けている。	創① 課題についての的確に考え理解し、歌唱表現に生かしている。 【観察・楽譜記入】 技② 自分で考えたり、知覚したり音楽表現をするために必要な技能について学習した内容が明確に歌唱表現されている。 【観察】	創① 自分なりに考えることができない生徒に対しては、既習曲での例を示し、スライドして考えさせる。 友達の良い意見を楽譜に付け加えさせる。 技② 具体的にアドバイスする。 知覚・感受しながら曲に相応しい発声発音、言葉のまとまりで歌う。
	おおむね満足（B）	Bに達しない（C）生徒へ学習支援
	創① 課題について考え理解したり、歌唱表現に生かそうとしたりしている。 【観察・楽譜記入】 技② 知覚した音楽表現をするために必要な技能について学習した内容が歌唱表現されている。 【観察】	創① 自分の普段の生活に関連させながら、イメージをもてるよう支援する。他の生徒の例を示し、一緒に考えさせる。 技② 具体的にアドバイスする。 プレスの方法や、発声の仕方、明確な言葉や発音で歌えるよう支援する。

V 研究のまとめと課題

1 研究の成果

これまでの研修会等では小学校と中学校が別々実施されることが多かったが、今回、小・中合同による同一研究テーマを通して研修できたことは大変画期的な機会であったと考える。授業の内容や方法をはじめ、児童・生徒への指導・助言など、分かり得なかった部分をお互いの授業研究を通して垣間見ることができた。また、これまでも取り組んではきたが、言語活動の必要性とともにその重要性をあらためて再確認することができた。特に今回の研究においては、思考力、判断力、表現力の向上には言語活動の重要性が必要不可欠と言っても過言ではないと考える。授業実践においては、小グループや、パート別グループでの話し合いをはじめ、言語カードを選択する方法等を用い、自分の考えや思いを他の人と共有することによる表現力の向上につながっていくことを証明することができた。児童・生徒からのアンケート結果からも「ただ歌うだけ」に留まらず、楽曲に対する思いや意図をもって歌唱表現していることが実証された。

さらに、判定基準の必要性および重要性を学ぶことができた。この評価方法は到達度を判定する評価であり、授業の目標をより明確化させることに加えて、児童・生徒一人一人の達成度合いを見極めることができる評価であることが分かった。このことは、従来の単元による総括的な評価以上に、より明確に判断できるものとして大変重要な評価であると考えている。

2 今後の課題

判定基準の扱いについては、実技をとまなう教科学習として他教科とは違う側面があり(教科の特性)児童・生徒一人一人の学習活動を見取することに困難を極めたことも事実であり今回の研究を通して判明したところである。

よって、音楽科としての判定基準の扱いについては、グループでの話し合い活動や発言および発表に終始せず、楽譜ワークシートの活用や自己評価カードの使用も重要性を増すものとする。さらには、パフォーマンス評価、生徒が活動している場面を教師が観察して的確な評価をすることが求められる。ただし、今回は歌唱領域としての設定であることから、今後の研究の課題は、器楽学習や鑑賞および創作学習それぞれにおける判定基準の設定及び実証授業による検証が必要である。また、判定基準の設定はできたが、C判定とB判定にとどまってしまった児童・生徒への支援のアプローチについて時間配分が重要である。

実証授業の中では、やはり、学習支援やアプローチが必要となった場合の場面設定をどのように確立していくかといったことも、これからの実践を積み重ねていく上での課題となっていくところである。

最後に今回、大変貴重な小・中学校合同研修会で研修したことを児童・生徒に還元するとともに、音楽学習活動を通して自分の思いや意図をもつことのできる能力を身につけられるよう取り組んでいきたいと考える。

☆参考文献

- 平成24年度中学校教育研究協議会資料 教育研究6 1 巻埼玉大学教育学部附属中学校
- 平成24年版観点別学習状況の評価規準と判定基準 中学校音楽 国立教育制作研究所
- 平成24年版観点別学習状況の評価規準と判定基準 小学校音楽 国立教育制作研究所

